

働くあなたの

経営学

Business Administration

東京理科大学大学院
経営学研究科技術経営専攻教授

佐々木 圭吾

Lesson
1

僕たちは「偏見という眼鏡」をかけている

僕（A君）は、文系大学の経営学部を卒業した。今は、都内で建設資材を製造・販売する中小企業で働く、入社3年目の営業マンだ。仕事にはだいぶ慣れた。でも、目の前の仕事を懸命にこなしているだけな気もする。せっかく学んだ経営学を仕事に活かしたいとは思っているものの、どうすればいいかわからない。そんな時、大学の先輩の結婚式で、佐々木圭吾教授に出会った。先輩が今、働きながら通っている大学院の先生だという。二次会で先生と意気投合した僕は、誘われるまま、後日、先生の研究室を訪ねた。



「大学で学んだ知識を活かせ」と言われても……

佐々木教授（以下、教授）

おつ、A君。久しぶりだね。

A君 ご無沙汰しています。

教授 元気にしてた？

A君 けっこう仕事が忙しくて……。

教授 忙しいのはいいことじゃないの？

A君 それはそうなんです……。最近、うちの会社、業績が悪いんです。この前も先輩から「おまえ、経営学部だったよな。それを仕事でも活かせないのか」なんて言われて。これって皮肉ですよ。

教授 いや、正直な助言じゃないの。実は僕も同じ経験があるんだ。大学を卒業して電機メーカーに勤めていたときに、南米のある国に赴任したんだ。そこの初めての会議だった。僕は一言も話さず、ずっと議事録を取っていたんだよ。それが一番若い自分の仕事だろうと思ってね。